

BCPの時こそテレワーク！

明豊ファシリティワークス ([HTTPS://WWW.MEIHOCO.JP/](https://www.meiho.co.jp/))

■ 貴社のBCPの時の対策について教えてください。

自然災害やパンデミック、テロ攻撃などの緊急事態が発生した際のBCPとしていくつかの対策を実施しております。一連の対策は従業員の安全確保を最優先とした上で、その後の事業継続性対応を採るものです。

安否確認の面では、社会インフラが遮断されて電話・インターネット等の通信手段が一時不通となり、自社独自のテレワークシステムだけでは個々の状況把握までは難しくなることを想定して、より確実な通信手段を有している外部サービスを別途採用しております。日常的にこのシステムを利用することはありませんので、年に一度の防災訓練の一環として本サービスを試用しています。またBCP発動まで至らないまでも、昨今の異常気象による通勤困難時の緊急連絡手段として活用するようにしています。さらにオフィスにはヘルメットや防災セットを従業員分保管するほか、通常利用している自動販売機やウォーターサーバーのストックも、非常時には開放して帰宅困難時の備えとすることを想定しています。

システム環境についてですが、大規模災害に備え、重要なデータは地理的に離れたデータセンターにバックアップを行っています。また、認証サーバー等セキュリティ上重要なサーバーは、クラウドへ移行した事で、自社オフィスが機能停止した場合でも、安全に事業を継続できるようにしています。

こうした対策のほか、物理的に自社オフィスが使えない場合や、通勤困難である場合も想定して、テレワーク環境（自称：『どこでもオフィス』）を整えて通常業務で活用しています。具体的には、外部契約のサテライトオフィスの活用を促進し、これらのオフィス及び自宅・外出先・移動中での業務も自社オフィスでの勤務と同様に行えるようにセキュリティ対策が施された社用パソコン（ノートPC・タブレットPC等）を全従業員に貸与しています。日々の業務においてテレワークが根付くことこそが、いざという時の災害時の迅速なBCP対応へと通ずるものと考えております。

■ どんなBCPの状況の時にテレワークを実施しますか？

当社では競争優位性確保を目的としてテレワークを積極的に導入し、従業員にはテレワークを推奨しております。BCPとしては広域災害の他、台風の接近やインフルエンザの流行や従業員の罹患が確認された場合等にもテレワークを実施します。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されますので、東京本社オフィス（千代田区永田町）周辺の交通渋滞緩和などの対策としても、テレワークの活用を検討しております。

■ 事前に周知などアナウンスしていますか？それとも自己判断で実施するのですか？

テレワークの実施自体は、原則的に自己判断としていますが、勤務場所やテレワークでの業務内容を組織内で簡単に共有することを目的として、自社製のモバイルアプリ「テレワーク申請」を使用し、申請を行うルールとしています。アプリからの申請内容は、Microsoft Teams 及び Outlook に自動的に投稿される仕組みになっており、テレワークを行っている社員とのコミュニケーションに役立てています。

BCPに基づく対応としては、緊急事態が生じた際には直に対策委員会を設置し、対応策を検討のうえ、社員に発信してまいりますので、そうした発信の中でテレワークを指示することが考えられます。また、緊急事態の規模・大きさにもよりますが、自己判断とすることもあります。ただし、自己判断は社員個々の判断にばらつきが生じたり、かえって危険を招いたりすることのないよう、安全を優先した自己判断を促しており、安全を優先した結果については個人の責任とならないよう（個人の判断を委縮させることとならないよう）配慮しております。

■どうしても会社へ行かねばならない場合はどのように対処していますか？

日々のテレワーク環境の整備、活用により、『会社へ行かねばならない』という状況自体を減らすように取り組んでおります。業務で使用する書類のデータ化・ペーパーレス化、社員によるデータの共有を進めており、プリントアウト業務等、一部の業務においてはオフィスで行った方が効率の良い業務も確かにありますが、BCPの事態においてはこうした業務が優先される場面も想定されにくいため、現在までのところは十分な対策が出来ていると考えます。

■BCP時のテレワークをしている様子、シーン、等画像をお寄せください。



テレワーク申請アプリと Teams に投稿されるメッセージ（Outlook スケジューラーにも自動反映）